長井市小中学校
将来構想検討委員会
提言書

長井市小中学校将来構想検討委員会　提言書

――　目　　次　――

はじめに 1

１．現状 2

（１）長井の子供を取り巻く社会 2
（２）児童生徒数の推移 3
（３）学校施設の状況 4

２．課題 5

（１）現状を踏まえた課題 5
（２）これからの学校をどうするか 5

３．検討 6

（１）本構想の位置づけ 6
（２）『長井市小中学校将来構想検討委員会』について 7
（３）検討委員、アドバイザー、講師等 8
（４）用いた思考手法 9
（５）検討プロセス 10
（６）第１回～第５回プロセス詳細 11

４．これからの学びと学校の在り方 12

（１）捉えるべき視点 12
①子供の学びのあり方 12
②学校のあり方 13
（２）目指す将来像と取組 14
①目指す理想の姿 14
②理想の実現のために 15
（３）これからの学校施設整備 17
①小学校は地域の核 17
②取組の方向性に沿った学校施設整備 17

はじめに

学校は、子供、保護者、教員、地域の方々が心を一つにし、未来を切り拓く子供達を育てていく共同体です。子供達が小学校や中学校を卒業するまでに、どのような姿へ成長して欲しいか、そのために学校という学びの場がどうあればいいのかを共有し、子供のより良い成長を支える体制を整える必要があります。

このたび、その体制づくりに向けて、長井市内で様々な立場で活躍されている方を委員とした長井市小中学校将来構想検討委員会を組織し、学校の将来の在り方を話し合っていただきました。

本検討委員会の目的は、子供達を真ん中に据え、それぞれの立場を超えて、願いや想いを伝え合いながら、長井市の目指す学校や地域の姿を明らかにしていくことです。加えて、長井市における学校や地域の新しい価値を創るきっかけとなることです。

アイディアはいくつもあり、どれが長井市にとって最善なのかという答えは、現時点ではありませんが、本提言書の最も特徴的なことは、委員の多様な意見や言葉を基にまとめ上げた提言であるという点です。本提言が、今後の長井市の教育施策を検討していく際の拠り所となれば幸いです。

本検討委員会の開催にあたり、第1回会議で基調講話をお引き受けいただき、会議各回においても適切な助言、時に熱い励ましのお言葉をいただきました山形大学教職大学院教授の江間史明先生に深く感謝申し上げます。

また、長井市学校教育アドバイザーである文部科学省大臣官房文教施設企画・防災部 計画課 整備計画室長の廣田貢先生には、第4回会議でファシリテーターをお引き受けいただき、幅広い見識と多くの「対話・熟議」の経験に基づいたご指導を賜りましたこと、厚く御礼申し上げます。

そして、まっさらな空に雲を描くように、子供達、学校、地域の未来について、「想い」を込めて多くのご意見をいただいた本検討委員会の委員の皆様に、深く感謝申し上げます。

長井市小中学校将来構想検討委員会　委員長　迎 田 浩 昭

１．現状

（１）長井の子供を取り巻く社会

現代社会はグローバル化が進み、その変化のスピードが著しいだけでなく、様々なことが複雑に絡み合った社会となっています。世界のとある国の出来事による影響が他の国々にも伝播し、その影響は社会経済の面で市民生活にも及びます。これは長井市のような地方都市でも避けることは出来ません。

グローバル化は外部から影響を受けるだけでなく、世界と積極的に関わっていくチャンスにもなりました。長井市の子供達は、各学校にいるALTと英語を使って日常的に触れ合い、個人に貸与されたGIGAスクール端末を使って授業を受けたり探究活動をしています。特にコミュニケーション分野はここ数年で大きく進化し、これまで繋がることが難しかった人との繋がりや、遠方の人との対話がオンラインで簡単にできるようになりました。長井市の子供達も、各学校でのマンツーマン英会話授業や、感染症の疑いで出席停止となった際に自宅で授業が受けられる等の恩恵を受けています。

一方、対面による人との触れ合いと、地域に根付いた文化は、グローバル化が進んだ今もほとんど変わっていません。家庭では家族と、学校では子供と先生、そして子供同士の触れ合いがあります。また、長井市の子供達は学校の内外で地域の方との関わりもあります。例えば学校の地域学習で地域の歴史や社会の仕組みを教えてくれる地域の方や、コミュニティセンター、子供会、伝統文化行事などで子供達と関わってくれる地域の方などが沢山います。子供達が健全に成長していく上で欠かせない人との関わりは普遍的に続いています。



【写真】GIGAスクール端末を使用した授業



【写真】ALTとのレクリエーション



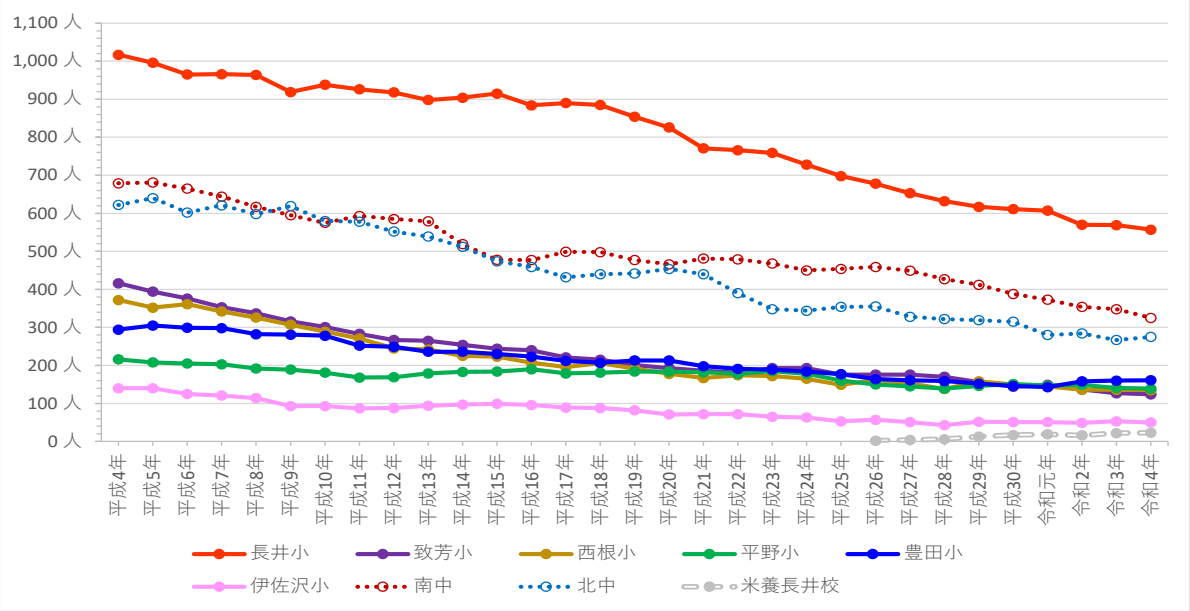
【写真】学校で継承している地域の伝統芸能



【写真】地域の方を講師に迎えた特別授業

（２）児童生徒数の推移

本市には、小学校 6 校と中学校 2 校があります。令和 4 年度の本市の児童生徒数の合計は 1766 名で、30 年前の 3756 名からおよそ半減しており、今後も緩やかな減少が見込まれます。



【図】市内小中学校の児童生徒数

【表】各学校の児童生徒数（※特別支援児童生徒を含む　出典：長井市教育委員会資料）

	長井小	致芳小	西根小	平野小	豊田小	伊佐沢小	南中	北中	児童生徒合計	参考米養長井校
平成４年度	1017	416	372	216	294	140	679	622	3756	
平成５年度	996	394	352	208	305	140	681	640	3716	
平成６年度	965	376	361	205	299	125	665	602	3598	
平成７年度	966	353	342	203	298	121	644	621	3548	
平成８年度	964	337	326	192	282	114	617	598	3430	
平成９年度	919	316	307	189	281	93	595	619	3319	
平成10年度	938	301	289	181	278	93	575	580	3235	
平成11年度	926	283	271	168	252	87	593	578	3158	
平成12年度	918	267	245	169	249	88	585	552	3073	
平成13年度	898	265	242	179	236	94	579	539	3032	
平成14年度	904	254	225	183	236	97	519	512	2930	
平成15年度	915	244	223	184	230	99	478	474	2847	
平成16年度	884	240	207	190	223	96	477	459	2776	
平成17年度	890	221	196	179	212	89	499	432	2718	
平成18年度	885	215	206	181	207	88	498	440	2720	
平成19年度	854	201	192	184	213	82	477	442	2645	
平成20年度	826	193	178	184	213	71	466	454	2585	
平成21年度	771	186	167	182	198	72	481	440	2497	
平成22年度	766	181	174	178	191	72	479	390	2431	
平成23年度	759	193	172	185	189	65	468	348	2379	
平成24年度	728	193	165	178	184	63	450	344	2305	
平成25年度	698	176	149	160	177	53	454	354	2221	
平成26年度	678	176	162	150	164	57	459	355	2201	2
平成27年度	653	176	153	145	161	51	449	328	2116	4
平成28年度	632	170	138	139	159	43	427	322	2030	6
平成29年度	617	156	158	146	152	52	412	319	2012	13
平成30年度	611	144	150	151	146	51	388	315	1956	17
令和元年度	607	149	145	147	143	51	373	280	1895	19
令和２年度	570	137	136	149	158	49	354	284	1837	16
令和３年度	569	127	136	141	160	53	348	267	1801	22
令和４年度	557	124	135	139	161	50	325	275	1766	23
30年間の減少率【平成４年度比】	54.8%	29.8%	36.3%	64.4%	54.8%	35.7%	47.9%	44.2%	47.0%	-

（３）学校施設の状況

令和３年３月に長井市および長井市教育委員会で策定した「長井市学校教育施設長寿命化計画」（以下、長寿命化計画）では、築年数、改修の履歴、劣化状況調査による健全度等を総合的に評価し、学校施設の改修等の優先順位付けを行いました。

長井南中と長井北中については令和４年度に改修工事を実施し、令和５年度も改修工事の追加を予定しています。長井南中と長井北中は建物の老朽化対策が一旦完了するため、これを踏まえた令和５年３月時点の改修等の優先順位を下記に示します。

【表】学校施設の改修等の優先順位（※令和５年３月時点。南中・北中は令和４・５年度改修工事により優先順位を格下げ。）

優先順位	施設名	築年数	老朽化対策改修年	鉄筋の腐食確率による推定劣化度【下段：改修済補正】	劣化状況調査による健全度	使用上の不具合	備考
高	伊佐沢小（体育館）	33	未	B	61	漏水	体育館
	伊佐沢小（校舎棟）	33	未	B	53、53		教室管理棟、多目的ホール棟
	致芳小（多目的ホール棟）	29	未	A	46	積雪時漏水	
	西根小（体育館）	46	H24	C【A】	52、70	豪雨時漏水	体育館、体育館渡廊下
	長井小（第２校舎）	50、52、53	H13	C～D【A～B】	45、45、49		機械室、西棟、東棟 ※改築の検討要
	長井小（第３校舎）	50、51	H22	C【A】	52、58		東棟、西棟
	長井小（至第3校舎渡廊下）	50	未	C	29、29		中央・西渡廊下（至第３校舎）
	致芳小（校舎）	45	H23	C【A】	68、68、70		教室棟、特別教室棟、管理棟
	致芳小（体育館）	43	H24	C【A】	77、77		体育館、渡廊下
	西根小（校舎）	40	H26	B【A】	80、82、87		教室棟、特別教室棟、管理棟
	平野小（校舎）	39	H28	B【A】	84		教室管理棟
	平野小（体育館）	39	H29	B【A】	78、85		体育館、渡廊下
	豊田小（校舎）	37、38	H26	B【A】	80		教室管理棟
	豊田小（体育館）	37、38	H27	B【A】	78、92		体育館、渡廊下
	長井小（体育館）	10	未	-	93、93		体育館、体育館渡廊下
	長井小（管理棟）	3	未	-	100、100		管理棟、渡廊下（至第２校舎）
	北中（教室管理棟）	41	R4	B【A】	R4 改修後未調査		
	北中（体育館）	41	R4	B【A】	R4 改修後未調査		体育館、渡廊下（至校舎管理棟）
	北中（特別教室棟）	41	R4	B【A】	R4 改修後未調査		東・西渡廊下含む
	北中（柔剣道場）	40	R4	B【A】	R4 改修後未調査		渡廊下含む
	南中（管理棟）	41	R4	B【A】	R4 改修後未調査		校舎、管理棟、体育館、柔剣道場
	南中（教室棟）	41	R4	B【A】	R4 改修後未調査		渡廊下（至管理棟）含む、増築部は無視
	南中（体育館）	41	R4	B【A】	R4 改修後未調査		体育館、体育館渡廊下
	南中（技術室棟）	41	R4	B【A】	R4 改修後未調査		渡廊下含む
低	南中（柔剣道場）	40	R4	B【A】	R4 改修後未調査		

２．課題

（１）現状を踏まえた課題

人口減少と少子化が進んだ自治体や一部の地域では、学校施設の老朽化を踏まえ、学校の統廃合が行われている現状があります。長井市の場合、小中学校は現時点で統廃合すべき状況にはありませんが、今後も続くであろう人口減少と少子高齢化社会の中で、学校をどう維持していくかは重要な課題です。

また昨今、全国各地の公立学校で、学力の向上や地域に根差した人材育成などを目的とした小中一貫校、中高一貫校も増えつつあります。

これからの長井市の未来を作っていく子供達にとって、学び・人との触れ合いの主たる場は学校です。現状の社会情勢を踏まえながら、将来を担う子供達にはどのような学校がふさわしいのか、今までの形にとらわれず、これからの学校の在り方を考えていく必要があります。

（２）これからの学校をどうするか

長井市内の小中学校８校の改修はこれまで築年数等に応じて輪番的に行っており、今後も必要な状況です。先述の長寿命化計画には、改修や改築のサイクルが示されていますが、この計画の主眼は建物の健全性の維持と整備費の平準化であり、長寿命化計画には学校の在り方を考える視点はありません。

これからの学校をどうするかは、

〇将来を担う子供達にどのような力をつけさせなければならないのか
〇そのためにはどのような学びや経験ができると良いのか
〇それにはどんな人が関わってもらう必要があるのか
〇それにはどんな場所・空間が必要なのか

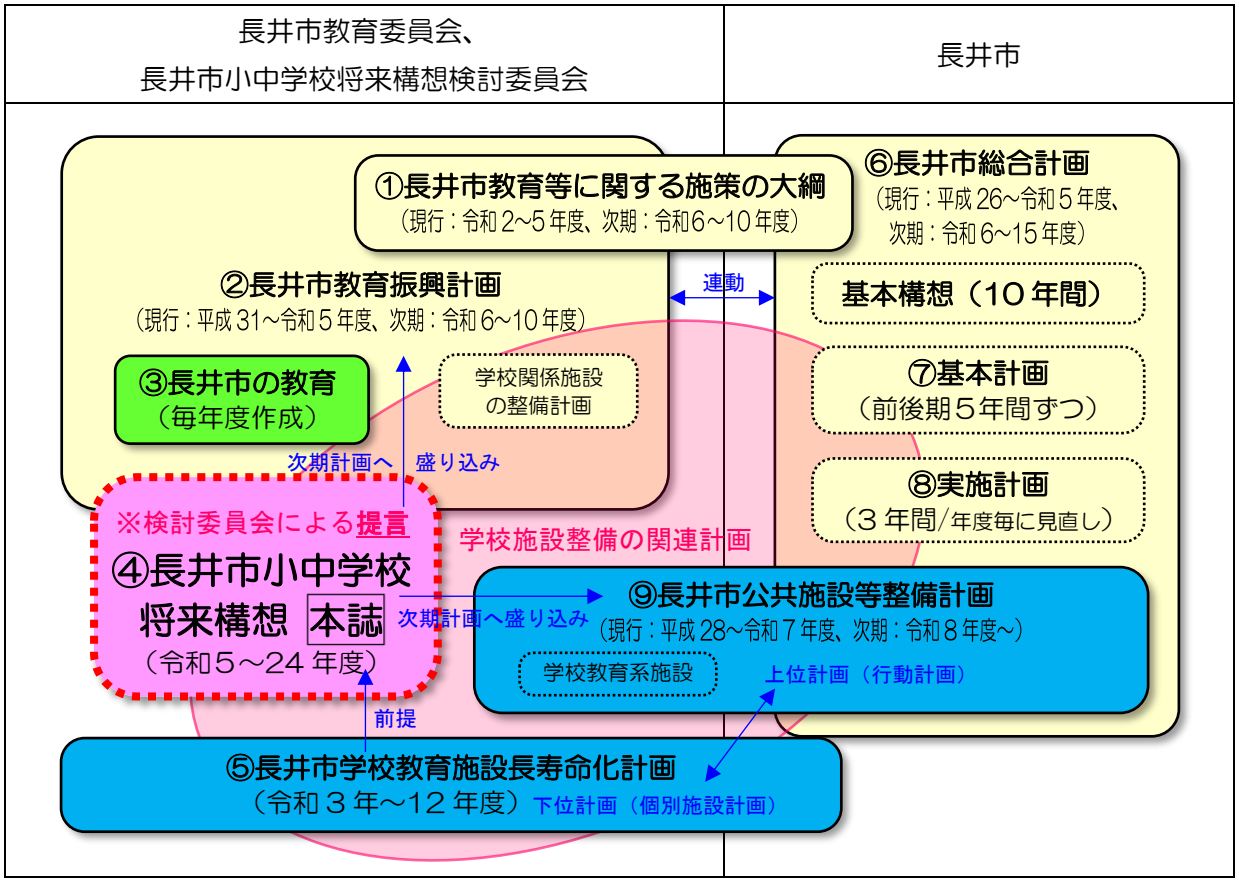
といった大局的なことを念頭におき、これからの学校の在り方として捉えるべき視点を踏まえ、将来の学校施設整備についても方向性を示していくことが課題となります。

３．検討

（１）本構想の位置づけ

本誌、長井市小中学校将来構想（下図④）は、今後およそ 20 年間（令和 5 年度～24 年度）に渡る長井市立小中学校の学びや学校施設の理想の将来像を示す構想として、『長井市小中学校将来構想検討委員会』が提言するものです。

この将来構想は、令和 3 年 3 月に策定した長井市学校教育施設長寿命化計画（下図⑤）を踏まえ、「現実的課題である施設整備」と「夢ある教育・理想の教育」の両輪について、次期の長井市教育振興計画（下図②）の下地としての役割を担うほか、長井市の教育および施設整備に関する計画にも中長期的な影響を与える構想として位置付けられます。



【補足】…令和 5 年 3 月現在、長井市における教育関係の各種計画等は次の相関があります。

長井市および長井市教育委員会では、教育・文化・スポーツに関する理念として①長井市教育等に関する施策の大綱を定めています。また、長井市教育委員会で策定する総合的な中長期計画として②長井市教育振興計画があり、①②に沿って毎年度作成する短期計画が③長井市の教育です。

一方、長井市で策定する総合的な中長期計画としては⑥長井市第五次総合計画があり、前後期 5 年間ずつの⑦基本計画と、毎年度見直し以降 3 年間の計画となる⑧実施計画があります。⑥⑦⑧の計画のうち、教育に関する内容は①②③に連動します。また、①②③⑥⑦⑧には、学校施設整備に関する内容を一部含みます。

施設整備に特化した中長期的な計画は、長井市で策定した⑨長井市公共施設等整備計画が上位にあり、⑨は長井市が所有する全ての公共建築物とｲﾝﾌﾗの維持管理・更新に関する行動計画となっています。一方、長井市および長井市教育委員会で策定した⑤長井市学校教育施設長寿命化計画は⑨の下位計画として位置づけられる個別施設計画となります。

（２）『長井市小中学校将来構想検討委員会』について

①会議体の設置と目的

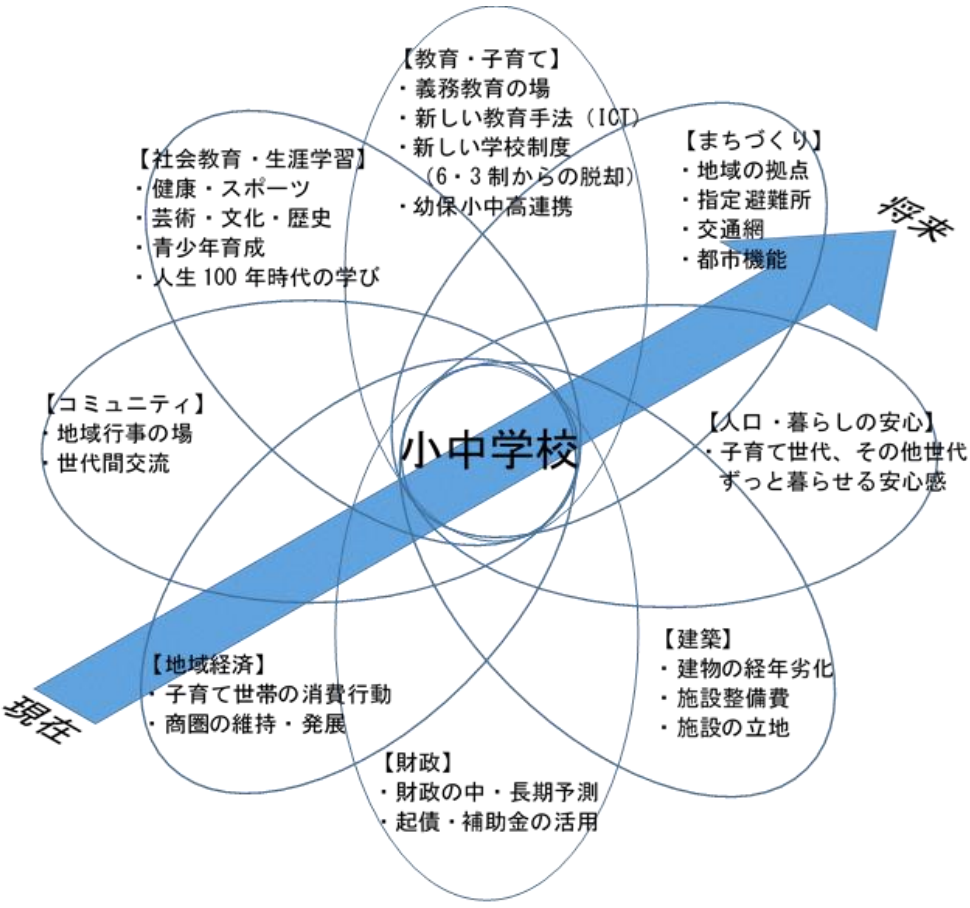
『長井市小中学校将来構想検討委員会』（以下、本検討委員会）は、長井市学校施設長寿命化計画（令和３年３月策定）を踏まえつつ、長井市にふさわしい教育の理想像を考えながら、長井市立小中学校８校の将来のあり方を検討することを目的とし、令和３年度～令和４年度の２か年間に設置し、令和３年度は２回、令和４年度は３回の会議を開催しました。

現実的課題である施設整備と、夢ある教育・理想の教育の両輪で、学校運営と学校施設がどうありたいかを、20年後を見据えてじっくりと協議する場としました。

②多様な視点による協議

義務教育である小中学校は人生の中で誰もが教育を受ける場所であるだけでなく、まちづくりやコミュニティの核となる場所でもあるため、小中学校のあり方を検討する際には、下記のイメージのように多様な視点が必要と考えました。

本検討委員会は様々な立場の方、専門的な見識をもった方を委員に委嘱することで、各者の視点での意見・考え方を伺い、より多角的に、長井市にふさわしい小中学校のあり方を協議できるよう配慮しました。



【図】小中学校を取り巻く多様な視点のイメージ

（３）検討委員、アドバイザー、講師等

【講師】

とき	講話テーマ	講師
第１回(R3.11.1)	学校統廃合と小中一貫校の動向と課題	江間　史明　先生
第２回(R4.3.30)	長井市のまちづくりについて	内谷　重治　長井市長
第４回(R4.12.19)	（講師兼ファシリテーター）学校・地域づくりで大切にしたい視点／乗り越えるべき課題と全国の挑戦	廣田　貢　先生

【アドバイザー】　（敬称略）

番号	氏　名	属性・役職
1	廣田　貢	【長井市学校教育アドバイザー】 文部科学省大臣官房　文教施設企画・防災部　計画課　整備計画室長

【検討委員】※番号に○のついている委員は、充て職委員で令和４年度からの後任者　（敬称略）

番号	氏　名	属性・役職	区分
1	江間　史明	山形大学教職大学院　教授　【本検討委員会副委員長】	5号委員 【学識経験者】
2	大津　君彦	長井市社会教育委員/育みネット長井会長/子育連副会長	
3	鈴木　英明	本町商店街　理事長	
4	梅津　　洋	長井小学校　校長（小学校校長会会長）※令和３年度	1号委員 【教育関係者】
④	竹田　　啓	長井小学校　校長（小学校校長会会長）※令和４年度	
5	衣袋　慶三	長井南中学校　校長※令和３年度	
⑤	赤間　幸生	長井南中学校　校長※令和４年度	
6	迎田　浩昭	長井北中学校　校長（校長会会長）　【本検討委員会委員長】	
7	小関　　洋	長井市PTA連合会　会長（平野小学校PTA会長）※令和３年度	2号委員 【PTA関係者】
⑦	菅野　弥則	長井市PTA連合会　会長（西根小学校PTA会長）	
8	横山　昌則	長井南中学校PTA会長※令和３年度	
⑧	平　浩一郎	長井南中学校PTA会長※令和４年度	
9	深澤　賢一	長井北中学校PTA会長※令和３年度	
⑨	小野　卓也	長井北中学校PTA会長※令和４年度	
10	本石　容子	長井市PTA連合会母親委員会委員長（平野小）※令和３年度	
⑩	髙橋　美香	長井市PTA連合会母親委員会委員長（西根小）※令和４年度	
11	椎名　沙織	長井市PTA連合会母親委員会副委員長（致芳）※令和３年度	
⑪	木村真由美	長井市PTA連合会母親委員会副委員長（致芳）※令和４年度	
12	上村　正已	地区長連合会　会長（中央）	3号委員 【地域代表者】
13	青木 与惣右ェ門	コミュニティセンター代表	
14	大沼　幸枝	長井市スポーツ推進委員会・女性委員代表	
15	梅津　建太	児童センター父母の会連絡協議会　会長（豊田児童センター）※令和３年度	4号委員 【幼保園関係者】
⑮	赤間　正紀	児童センター父母の会連絡協議会　会長（平野児童センター）※令和４年度	
16	渋谷　弘美	白ゆり保育園　園長	
17	孫田　恵	はなぞの保育園　主任保育士	
18	鈴木　裕美子	小桜幼稚園　元教頭	
19	工藤　望美	長井商工会議所青年部・女性代表	6号委員 【青年代表者】
20	齋藤　憲幸	長井青年会議所　理事長※令和３年度	
⑳	齋藤　圭央	長井青年会議所　理事長※令和４年度	
21	齋藤　環樹	長井市副市長	7号委員 【行政関係者】
22	竹田　利弘	長井市　政策推進監	
23	青木　邦博	長井市　技監	
24	鈴木　嗣郎	長井市　財政課長※令和３年度	
㉔	佐藤　　久	長井市　財政課長※令和４年度	

【オブザーバー】※番号に○のついている委員は令和４年10月からの後任者。小野卓也氏は令和４年度は検討委員会委員⑨として出席。

番号	氏　名	属性・役職
1	遠藤　倫夫	長井市教育委員会　教育長職務代理者
2	菊地　和代	長井市教育委員会　教育委員
3	小野　卓也	長井市教育委員会　教育委員
4	齋藤　曉美	長井市教育委員会　教育委員（令和４年９月30日まで）
④	鈴木　奈美	長井市教育委員会　教育委員（令和４年10月１日から）

【事務局】※番号に○のついている職員は令和４年度からの後任者

番号	氏　名	属性・役職
1	土屋　正人	長井市教育委員会　教育長
2	佐藤　秀人	長井市教育委員会　教育総務課長
3	目黒　孝博	長井市教育委員会　学校教育課長※令和３年度
③	横澤　聡一	長井市教育委員会　学校教育課長※令和４年度
4	小阪　寛幸	長井市教育委員会　教育総務課　補佐
5	鈴木　千鶴子	長井市教育委員会　学校教育課　補佐(兼)こども未来創造室長※令和３年度
⑤	今野　　透	長井市教育委員会　学校教育課　補佐(兼)こども未来創造室長※令和４年度
6	新野　武憲	長井市教育委員会　教育総務課　教育総務主査

（４）用いた思考手法

①バックキャスティング思考

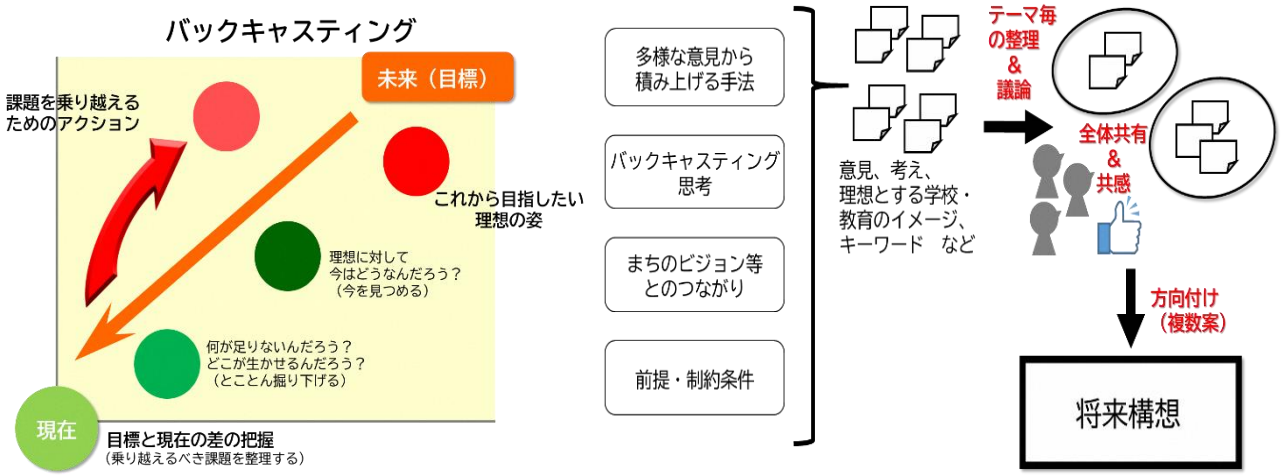
将来構想は 20 年後の「未来」を見据えて議論をしていくため、本検討委員会では「バックキャスティング」という思考手法を用いました。「バックキャスティング思考」とは、多様な意見をもとに組み立てる必要がある場合、可能性を広く検討したい場合、議論の前提条件が複雑な場合などに有効な方法と言われています。その反面、議論に時間がかかること、形が見えるまでわかりにくいことなどが短所と言われています。

会議の参加者はスタート時点では意見の出しにくさを感じる方法ですが、本検討委員会では敢えてこの方法を選択し、将来構想を「白紙の状態」から描き始めました。

②共同思考と共感

段階的に検討を進める中で、委員の意見や理想のイメージに基づいてテーマを整理し、そのテーマ毎にグループワーク等で議論を交わすことで将来構想を徐々に形作っていく、共同思考による検討プロセスとしました。

グループワークでは、沢山のキーワードや方策を個人毎に付箋に書き出して模造紙に貼り、グループの意見として整理した後、各グループの模造紙や個人の付箋に書かれた内容を参加者全員で見回り、全体で共有しました。見回りの際、他者や他のｸﾞﾙｰﾌﾟの内容に共感したものには印をつけ、共感の多いキーワードや方策を抽出・整理することで、長井にふさわしい理想の姿や方策の方向付けを行いました。



【図】本検討委員会で用いた思考手法のイメージ



【写真】グループワークの様子

（５）検討プロセス

①筆頭の目標を『子供の理想の姿』に

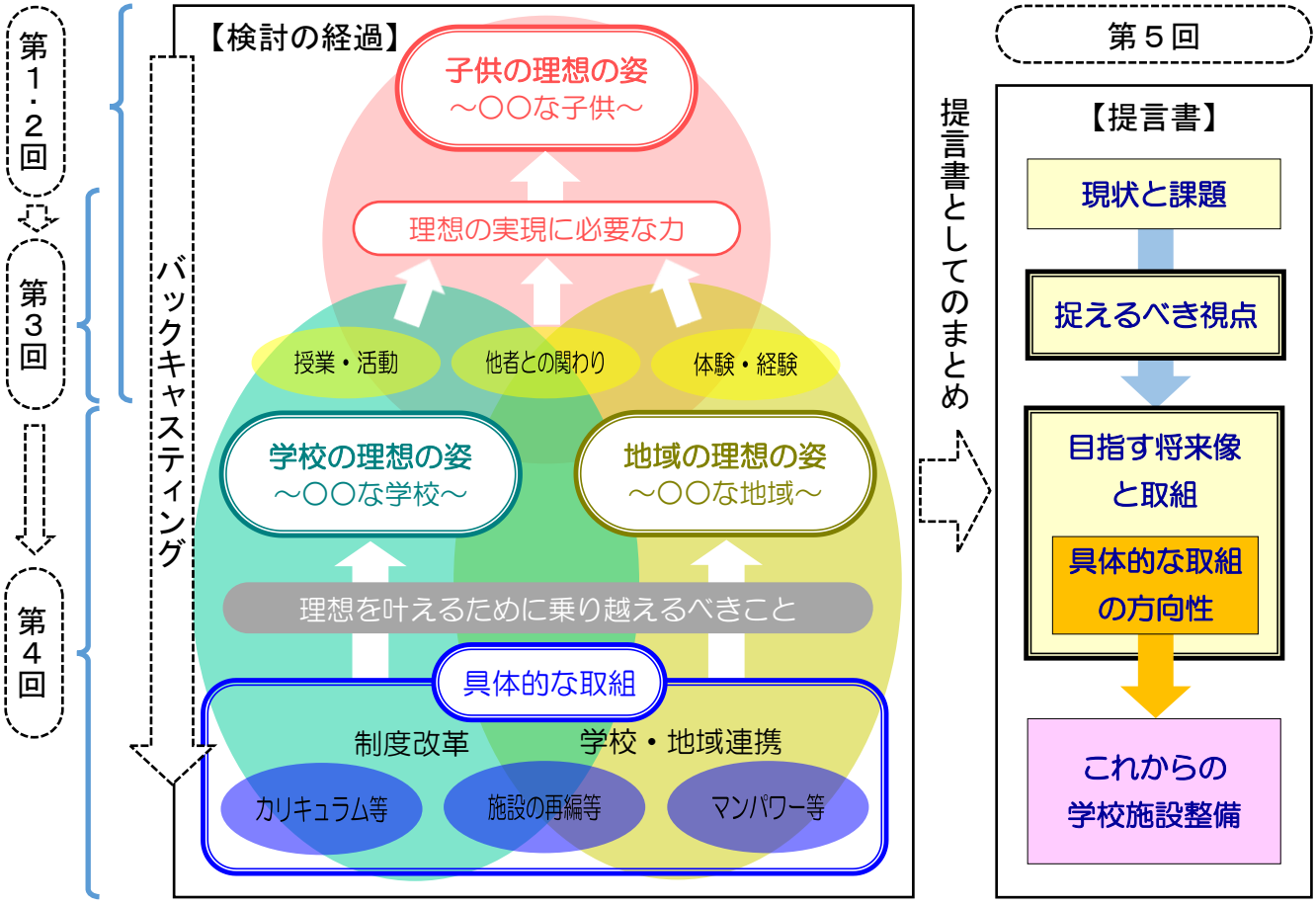
本検討委員会では、将来構想を白紙の状態からスタートし、はじめにバックキャスティング思考で目標を定めました。この将来構想は小中学校のあり方を示すものですが、目標の主体は学びを受ける権利者である子供達です。将来構想の筆頭に掲げる目標を『子供の理想の姿』とし、第１回、第２回会議における各委員の意見からキーワードを抽出して目標を設定しました。

②『学校』だけでなく『地域』の力を

第３回会議では事務局で整理した『子供の理想の姿』を提示した後、理想の実現に必要な力と、その力を育むためにはどんな授業・活動や体験・経験や人との関わりが必要か、学びの主体者である子供を取り巻く視点で意見を出し合い整理しました。なお、『子供の理想の姿』の実現には『学校』だけでなく『地域』にも協力を求める意見が多かったことは特筆すべき点です。

③将来構想にメッセージを込めて

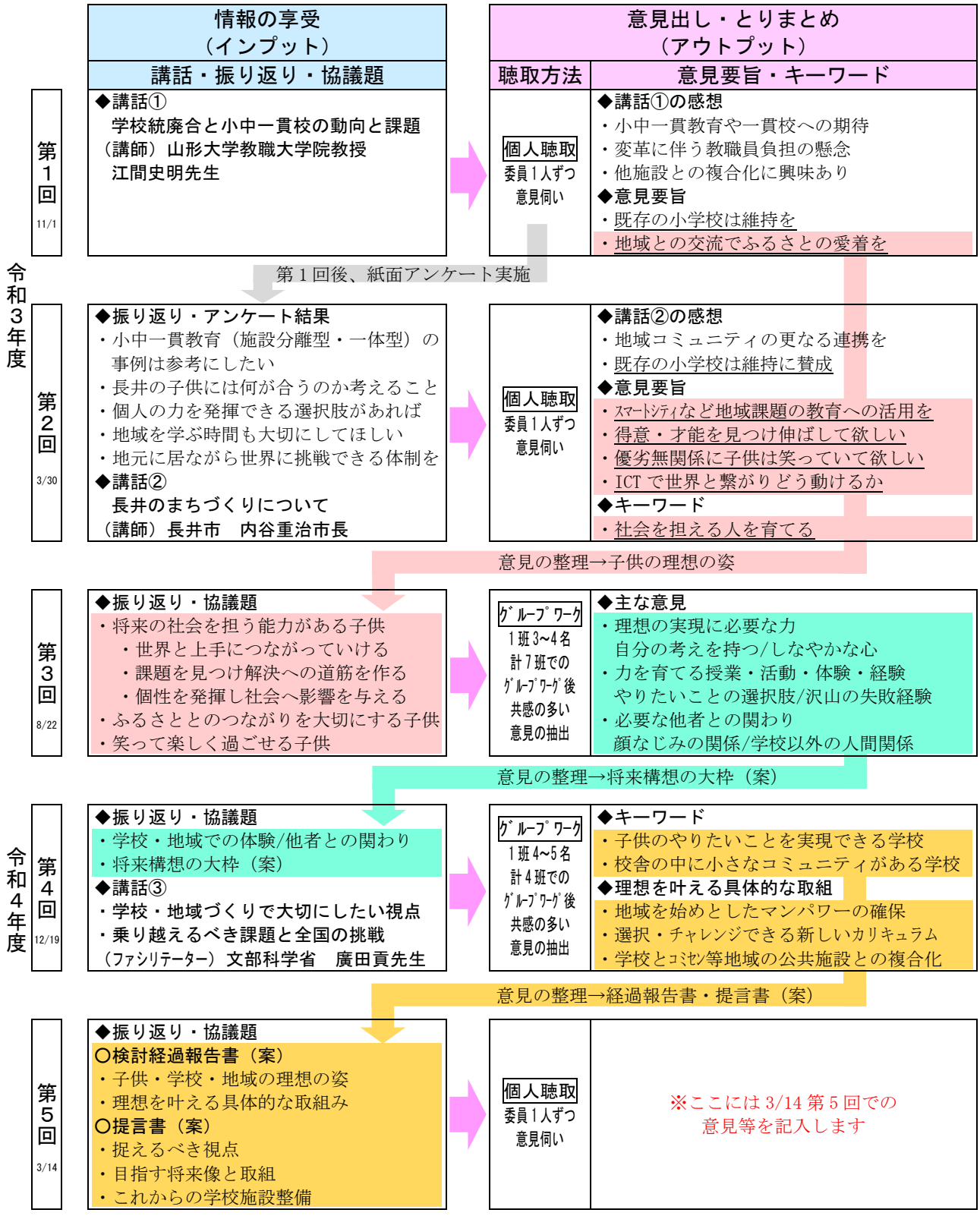
第４回会議では『学校の理想の姿』と『地域の理想の姿』について、メッセージ性のあるキーワードの他、理想を実現するための『具体的な取組』について意見を出し合いました。将来構想案は第４回会議までの意見を元に作成し、第５回会議前に本将来構想案を委員に提示し、第５回会議は本検討委員会としての提言書を確認・修正する最後の協議の場としました。



【図】将来構想の構成と検討プロセスのイメージ

（６）第１回～第５回プロセス詳細

各回、講話や前回までの振り返りで情報を享受後、個人聴取やグループワークによる意見出しを繰り返すことで、将来構想を徐々に描いていくプロセスとしました。



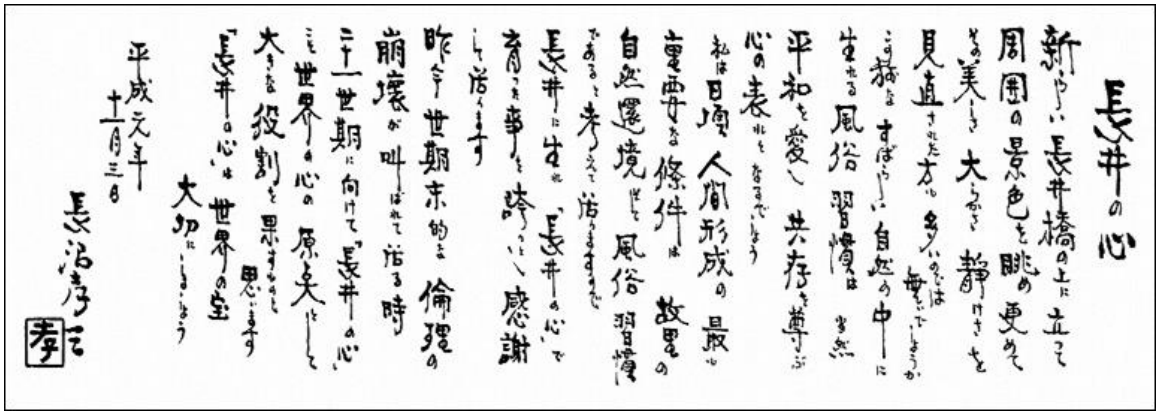
４．これからの学びと学校の在り方

（１）捉えるべき視点

①子供の学びのあり方

ⅰ）「長井の心」を拠り所にして

長井市は、第五次総合計画において「いのちを育み『長井の心』を未来につなぐまち」を教育目標として、思いやりの心を持ち、互いの個性を発揮し、尊重しながら、自立し、協働して、持続可能なふるさとを主体的に想像していく力を身に付けていくことを目指してきました。「長井の心」を学びの中心にすることは、長井市の恵まれた自然環境や文化の中で、「平和を愛し、共存を尊ぶ心」を育んでいくことであり、長井市にとってはいつの時代にも変わらない学びの中心となるものです。



【図】長井市名誉市民　長沼孝三先生の「長井の心」

ⅱ）学びのこれから

一方で、変化の大きな社会の中で、自らの幸せを実現するために必要な力を養うことも求められています。また、個人の幸せの実現は個人のみで成し得るものでないことから、社会全体又は世界全体との関係性も踏まえて SDGs やウェルビーイングの観点を持ち、他者と関わりながら学んでいくことも必要です。育んでいきたい子供たちの力を学校教育の中で実現するため、一人ひとりの子供の個別最適な学びと協働的な学びを考えていく必要があります。

②学校のあり方

ⅰ）ICT の活用と多様化への対応

GIGA スクール構想に基づく１人１台端末の整備によって、一人ひとりの理解度や学習状況の把握が可能となるほか、それぞれの状況に応じた学習を実施していくこともできるようになります。このことは、子どもたちの特性に配慮した学びを保障することに繋がります。

ICT 機器の活用により、教室が世界中とつながることもできるようになりました。探究学習や地域学習に１人１台端末を活用することにより、情報や知識の習得に加えて、多様な他者との協働的な学習を展開し、より深い学びとすることが求められています。これらは学びの多様化を保障することでもあります。その際に、子供たちの挑戦を後押しし、失敗を恐れずに支え続けることも大切です。

ⅱ）地域の力を学校へ

多様化する学校の学びは、地域とのつながりを強めていく機会にもなっていきます。現代的な学びは学校だけで完結することなく、地域の力も最大限に生かした学校にしていくことが求められています。

（２）目指す将来像と取組

①目指す理想の姿

本検討委員会では、これから目指していく長井市の理想の子供像や学校の姿を、次のように検討しました。

【目指す子供像】

●不確実で正解がない時代だからこそ、子供たちが安心して何事にも挑戦できる学校であってほしいと願います。たとえ失敗を経験したとしても、仲間と支え合い、再び挑戦する子供たちであってほしいです。その積み重ねが未来を切り拓く力となり、将来の長井市を支える力となっていきます。

【私たちが求める学びの場】

●お互いが一人ひとりの個性を大事にして、理解し合えれば、安心感が生まれます。

●子供達自身が安心して生活し、自らの興味・関心をもとに主体的に多様な学びに取り組めるようになれば、理想とする学校に近づけると考えます。

●これは学校だけが取り組むものではなく、実現のためには地域の力も不可欠です。

●授業への地域人材による協力、伝統行事やイベントへの子供たちの参加があり、活動を通して育まれるたくさんのコミュニケーションや絆が、子供も地域の人も元気づけます。

●このような活動の場所となる学校施設は、学校と地域が子供を縁として密接に関わる場所であることが望ましいと考えます。

●長井市の学校は、真に地域に開かれた場所として今後も整備・維持されていくことが期待されます。

②理想の実現のために

本検討委員会では、理想の子供像や学校の姿を実現していくために、長井市における学校教育や学校施設の将来の姿を次のように検討しました。

（ｉ）未来を切り拓くための確かな学力としなやかな心を育む

- 長井や日本を担っていく子供たちに身に付けてもらいたい力や、取り組んでほしい学びとして、思いやりを持ち、何事にも挑戦するための力や心を大事にしていくこと、また、多様な考え方や自ら見つけた課題について学ぶことができることが挙げられます。
- これらの学びは、ICT を活用して国内外とつながり、交流を深めながら実現していくことも期待されます。

【求められる具体的な取組の方向性】

①一人ひとりの個性や挑戦することを大事にする教育

- 子供一人ひとりを見つめ、その個性をしっかりと見極めるとともに、正解だけを求めず、失敗してもその過程も含めて成長を見守っていくこと。
- 子供自身がやりたいと思う学びの選択肢が数多くあり、挑戦する気持ちを受けとめられる教育環境にしていくこと。

②多様性への理解や共存する心を育む教育

- 少子化が進み、限られた人間関係になってしまう傾向の中で、人間関係の基礎となるコミュニケーションを土台として自分や他者の個性を相互に理解する力を身に付け、ともに育つ仲間を見つけ、楽しく過ごしていける子供を育てていくこと。

③多様で専門性のある学びや探究的な学びの実践

- 学校や地域の中で、自分の関心のある分野を突き詰めていくことができる授業や得意分野をさらに深めていくことができる学びの場を作ること。

④世界とつながり、交流を深められる学び

- ＩＣＴ環境を追い風として、距離や国の枠を超えて世界の人とつながり、友達を作り、自分の考えを持ってディスカッションしたり、交流したりできる子供を育てていくこと。

（ⅱ）学校と地域が共に子供を育む環境を創る

- 未来を切り拓くための確かな学力としなやかな心を育むためには、学校の中だけではなく、学校と地域が一体となって子供を育んでいくことが不可欠です。
- 学校内外で地域の人達が子供に関わりを持ち、子供たちが安心して学び、交流できる環境を創っていくことが期待されます。

【求められる具体的な取組の方向性】

①地域の先生による地域学習の実施や学校への支援

- 挑戦する力を身に付けるために必要な多様な学びの保障のため、学校だけでは不足する人的資源を地域の先生や専門家等の協力者による力で補っていくこと。

②子供の興味・関心や得意なことを引き出し、伸ばせる地域

- 地域主体の課外活動やキャリア教育などを通して、学校生活だけでは引き出せない子供達の興味・関心や得意分野を見出し、主体的に挑戦する力を伸ばしていくこと。

③地域の人が子供と仲良くなり継続的に関わっていける地域

- 子供たちが地域行事やお祭りなどを通して活躍の場があり、大人から認められる過程で自己肯定感が高められ、地域の人と子供達の関わりが継続される好循環を作っていくこと。

④学校・地域における安心と絆を育む居場所づくり

- 子供たちが安心感を持ちながら成長していくために、学校の中にも地域の中にも自分の居場所があると感じられる空間を作っていくこと。

（３）これからの学校施設整備

①小学校は地域の核

長井市の小学校は、長井市の 6 つの地区に 1 校ずつ設置されています。また、中央地区以外の小学校名は地区名が冠されています。

【表】市内小学校 6 校の名称と児童数

地区名	小学校名	児童数(令和 4 年度)
中央地区	長井小学校	557 名
地方地区	致芳小学校	124 名
西根地区	西根小学校	135 名
平野地区	平野小学校	139 名
豊田地区	豊田小学校	161 名
伊佐沢地区	伊佐沢小学校	50 名

児童生徒数の推移は（１）**これからの学校施設整備をどうするか　①児童生徒数の推移**　に示した通り、児童数は過去 30 年間でおよそ半減しているものの、現時点でどの小学校も統廃合を進めるべき状況にはありません。もし、ある地区から小学校が無くなれば、連鎖的に児童センターの統廃合、子供のいる世帯の転居、コミュニティセンターや子供会などの地域行事の衰退など、地区のコミュニティが崩れる恐れが高まります。

このことから本将来構想においては、小学校 6 校は統廃合しない方向性とし、かつ小学校 6 校は地域コミュニティの核として位置付けます。

②取組の方向性に沿った学校施設整備

学校施設整備については、（１）**捉えるべき視点**と（２）**目指す将来像と取組**を踏まえ、これから目指していく子供と学校の理想の姿と、理想を実現するための取組の方向性に沿って考えていく必要があります。

学校施設整備は下記の例のように、取組の方向性によっていくつかのパターンが想定されます。現状を大きく変える施設整備だけでなく、現状維持の場合も考えられます。本将来構想では、学校施設整備について結論を絞るのではなく、理想を実現するための将来の選択肢を考えることとします。

（ｉ）現状維持の場合

現状維持の場合、学校と地域にある公共施設と、施設が分離したままの地域連携が考えられます。この場合は、長寿命化計画で示した優先順位により、建物毎の長寿命化改修を行っていくことが考えられます。

また、小学校と中学校が分離したまま、施設分離型の小中一貫教育を行うことが考えられます。この場合も、施設ごとの長寿命化計画で示した優先順位により、建物毎の長寿命化改修を

行うことが考えられます。

（ⅱ）現状を大きく変える場合

現状を大きく変える施設整備の場合、学校と地域にある公共施設との複合化が考えられます。例えば小学校に、コミュニティセンター、児童センター、学童クラブ等を複合化することが考えられます。

また、小学校の複合化と、施設分離型の小中一貫教育を併用することも考えられます。この場合、中学校は長寿命化改修をしていくことになります。

なお、小中一貫教育については、施設分離型の他、施設一体型の小中一貫教育の事例もありますので、併せて検討していくことが考えられます。この場合は、小学校と中学校との合築が考えられます。

本将来構想では、学校施設整備の選択肢を提言するまでに留め、より具体的に学校施設整備をどうするかは、残された課題として、長井市及び長井市教育委員会において検討が必要です。